

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第28回

金沢工業高専の活動報告



松下臣仁
(金沢工業高等専門学校・
グローバル情報学科准教授)

「グローバル人材育成
プログラム」を実施

◆KITT/KTTCラーニングエクспレスを
10日間にわたって実施

学校法人金沢工業大学 (以下、本学園) で
は、「KITT/KTTCラーニングエクспレス
(9月受入)」「プログラム」(以下、本プロ
グラム)を、平成27年9月7日(月)から16
日(水)までの10日間にわたって実施しまし
た。本プログラムでは、シンガポール理工学
院の学生5名と引率教員1名、インドネシア
のムハマディア大学マラン校の学生5名を本
学園に招き、金沢工業大学(KITT)の学生
12名、金沢工業高等専門学校(KTTC)の学
生6名と共に技術・文化交流活動を行いました。

「KITT/KTTCラーニングエクспレス」とは、本学園学生がアジアの開発途上国
を訪問し、地域産業の活性化や環境問題の改
善などの観点から課題を発見し、解決策を創
出するグローバル人材育成プログラムです。
本学園学生は提携校であるシンガポール理工
学院生と訪問地域の大学生とチームを組み、
国籍や専門分野の違いを超えて協働します。
平成27年3月に、学生達は2週間にわたって
インドネシア・マランで活動し、本プログラ
ムはその3月の活動の事後学習と位置づけら
れています。今回、マランで協働した学生を
短期留学生として金沢へ招待し、再び多国
籍・異分野連携チームを結成して、本プログ
ラムがスタートしました。チームは本学園の
モノづくり施設を利用して、3月にマランで
創出した課題解決案のうち2つのアイデアを
具体化するモノづくりに取り組みました。

◆ミルクキャンディの生産工程の改善

アイデアの1つ目は、観光客向けの土産や
家庭用としても需要がある、ミルクキャンデ
イの生産工程の改善を図るものです。滞在し

プログラム

1日目	到着、歓迎レセプション、オリエンテーション
2日目	扇が丘キャンパス見学、やつかほキャンパス研究所見学
3日目	日本語講座、活動の拠点となるモノづくり施設の紹介および使用に関する講習
4日目	学生チームによる共同プロトタイプ製作活動
5日目	学生チームによる共同プロトタイプ製作活動
6日目	学生チームによる共同プロトタイプ製作活動
7日目	金沢伝統工芸ものづくり体験(蒔絵体験)、金沢市内見学
8日目	成果発表会
9日目	小松空港から東京へ移動。国立科学博物館見学、都内文化体験
10日目	浅草等、都内文化体験。帰国

た村では家内工業でミルクキャンディを生産
しており、学生は手作業で細かく切り分ける
工程に着目し、より生産性を高める「ミルク
キャンディカッター」を提案。一部実用可能
な機能を備えたプロトタイプを製作しました。
2つ目は、家畜の飼料となる昆虫養殖の現場
で、効率よく幼虫とさなぎの選別ができる製
品のプロトタイプを製作しました。これらの
プロトタイプは、ムハマディア大学の学生が
現地へ持ち帰って試用してもらうことになり
ました。今後は現地の作業者からのフィード
バックを踏まえて、改良、最終的な現地導入
を図っていきます。

また本プログラムでは、日本への理解、興
味を深めてもらうための文化体験の機会も設
けられました。留学生は本学園学生と共に、
金沢市の観光名所である兼六園、近江町市場





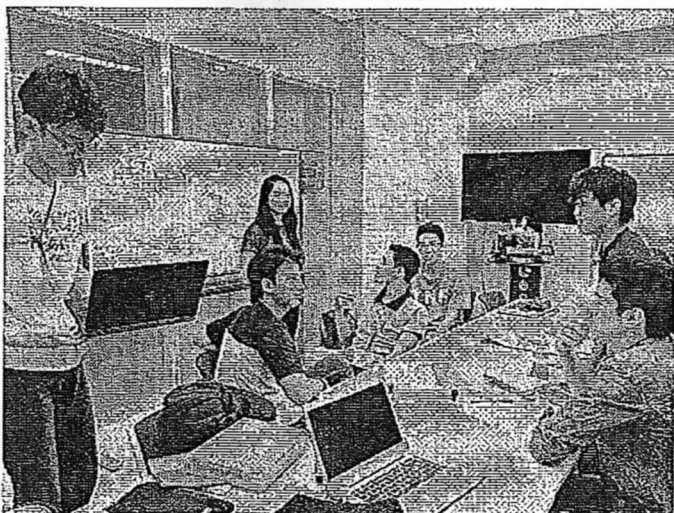
蒔絵体験をする留学生ら



到着時の歓迎会

などを視察し、石川県の伝統工芸である蒔絵体験にもチャレンジしました。また、金沢でのプログラム終了後は、東京で1日を過ごし、国立科学博物館や浅草寺等を訪れました。これらの活動を通して、日本の歴史や伝統的な建築物、工芸品、地域の特色ある食事などを実際に見聞し、あらためて日本文化への関心が深まったようでした。

◆実践的な専門的英語運用能力の向上
本プログラムを通して、留学生達から「日本文化を直に体験し、充実した日々を送ることができた。またいつか日本に戻ってきたい」という声を聞くことができました。また、チームで考案したアイデアを具体化し、プロ



活発なディスカッション



協力して加工作業をすすめる学生たち

トタイプをインドネシアに持ち帰るという目的も果たすことができ、大きな達成感を得て帰国の途につきました。本学園学生にとつては留学生との活動を通して、日常生活だけでなく、より実践的な専門的英語運用能力、コミュニケーション能力に磨きをかける機会となりました。そして何よりも、学生達は活動を通して新たな友情を育むことができたことに、最も大きな喜びを感じており、大変実りの多いプログラムとなりました。

これからも本学園は海外教育機関との連携を推進し、国籍を超えた文化交流と実践的な技術交流を通して、多文化共生の礎となる能力を涵養する機会の提供と環境構築を進めてまいります。この度は本プログラムの実施にあたり、JSTをはじめ、ご協力いただいた関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。